

「利益相反に関する事例について」

「狭義の(個人としての)利益相反」

例：ある教授がベンチャー企業の株を保有し、その企業が特許を保有する新薬の臨床試験をその教授が大学において行うような場合。

(具体的な内容)

教授が保有するベンチャー企業の株からの利益(キャピタルゲインなどの成功報酬的利益)と大学の教授として、臨床試験を公正中立な立場で行わなければならないという職務とが衝突していると考えられる。つまり、企業のキャピタルゲインを得るために、臨床試験の結果をゆがめていると外部から判断されるという問題や、実際にはそのようなことがない場合でも、社会的にゆがめてしまっているとの疑惑の目で見られるという問題が生じる場合のこと。

「狭義の(大学としての)利益相反」

例：大学がある企業の株式を保有していたり、ある企業から多額の寄付金を受けている場合に、その企業との間で共同研究などを行うような場合。

(具体的な内容)

大学が受ける企業の株からの利益(キャピタルゲインなどの成功報酬的利益)や多額の寄付金と、大学が研究などにおいて企業と公正な関係をとるという社会的な責任が衝突していると考えられる。つまり、大学が社会的責任としての研究教育を進めるということよりも、大学自体の利益を優先して、判断をゆがめてしまっているのではとの疑惑の目で社会から見られ、大学の信頼を傷つけてしまうという問題が生じる場合のこと。

「責務相反」

例：教授があるベンチャー企業の取締役を兼任しているような場合に、そのベンチャー企業の仕事が忙しくなり、取締役の職務執行責任から大学の授業や研究に支障が出ているような場合。

(具体的な内容)

教授のベンチャー企業の取締役としての職務責任と大学の教授としての教育や研究などの職務責任が衝突しているような場合。つまり、大学教員の大学における教育や研究に対する職務責任よりも、兼業している職務からの責任を優先して、本来の職務を遂行できなかつたり、職務を遂行出来ていないのではと社会から見られるという問題が生じる場合のこと。

以 上